

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 3 月 20 日	
所属部局・職	霊長類研究所・技術職員
氏名	兼子明久

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
鹿児島県熊毛郡屋久島町 (屋久島)	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
生息地研修	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 27 年 3 月 11 日 ~ 平成 27 年 3 月 14 日 (4 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
今回の派遣の目的は屋久島に生息するニホンサルなどの動物の観察を通して、動物本来の生態や屋久島という生息地と動物との関わりを学ぶことであった。	
同行者 澤田晶子 (特定研究員)、鈴木崇文 (技術専門職員)、橋本直子 (技術職員)、山中淳史 (技術職員)	
日程 2015/3/11 ニホンザル観察 (西部林道) 2015/3/12 ニホンザル観察 (西部林道)、鳥獣被害に関するヒアリング (屋久島町役場尾之間支所) 2015/3/13 ニホンザル観察 (西部林道、安房)、地元のお祭りに参加 (永田) 2015/3/14 屋久島フィールド散策 (白谷雲水峡)	
<b>【ニホンザル観察】</b> 今回の行程では 3 日間もニホンザルの群れを長時間観察することができた。屋久島で研究している方や幸島でサルを見続けている方とも同行できたので、さまざまな視点で野生のニホンザルを観察することができた。報告者自身は個体間の距離感にテーマを持ち、研究所で暮らすサルとの比較をおこないながら観察した。また今回は西部林道だけでなく安房の観光地の個体も観察する機会があり、その違いに驚かされた。観光地のサルはヒトを見つけるとすぐに集まってきて常にヒトを観察するようになるが西部林道のサルはそうでは無い。サル本来の生態を観察するにはどちらが良いか明白であった。ただ西部林道でも観光者がお菓子を与えている所に遭遇した。今後、対策をとらないと観光地のサルのようにになってしまうのではないかと不安をよぎらせる出来事であった。	
	
西部林道のサルは自然の目線で生活している。	安房のサルは常に目線がヒトに向いている。

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### 【屋久島の鳥獣被害】

事前に屋久島町役場の方に連絡して、ヒアリングの機会を得ることができたので、尾之間の支所にある、農林水産課にお邪魔した。わずかな時間ではあったが、サル以外にもシカやヒヨドリなどの被害の状況を聞くことができた。またサルの被害対策としての電気柵の設置方法や管理方法などを聞くことができ大変勉強になった。



屋久島町役場尾之間支所



支所の近くにそびえ立つモッチョム岳

### 【地元の方との交流】

今回、偶然にも永田集落のお祭りに参加する機会があった。二十三夜祭といって太陽と月を拝んで集落の発展を祈願するお祭りで、何十年も途絶えていたものを地元の方たちの手で最近復活させたという、地元の方にとっては努力の結晶のような行事であった。地元の手料理を頂きながら、集落の歴史から京大とのつながりなど思ってもみなかった話をたくさん聞くことができた。やはりフィールド研究には地元の方との交流、関係の構築がとても必要なのだとつくづく感じた。今回の生息地研修で得られた経験で印象に残る出来事の一つであった。今後も継続してこのような地域の祭りなどに京大の関係者が出てくれることを願う。



伝統の亀女踊りを踊る地元の方々



地元の手料理を頂く

今回の研修では、ニホンザルそのものの暮らしぶりを垣間見ることができた。観光地で見たサルでは無く、サル本来の暮らしを今後も観察できるよう、西部林道のサルを守る必要があると感じた。その為には、地元の方や自治体の方など地域の方とのコミュニケーションというものが非常に重要になってくる。今後の若手の研究者のためにも密な関係性を継続していければと感じた。

## 6. その他 (特記事項など)

今回の研修にあたり生息地研修の機会を与えてくださった松沢哲郎先生をはじめ、関係者の方には深く御礼申し上げます。また研修の細かな調整をおこなって頂いた同行者の澤田晶子さんにも感謝いたします。